

## (4) 南 関 東



南関東地域では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている。

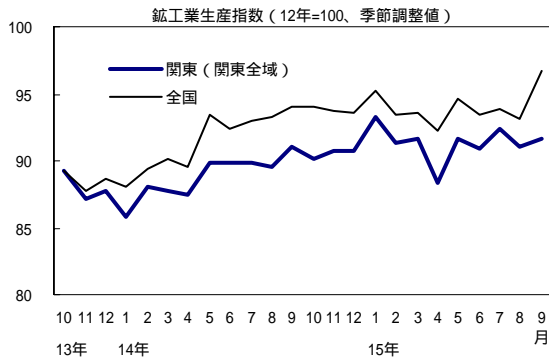
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 8 月）	今回（平成 15 年 11 月）	
住宅建設	増加	おおむね横ばい	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている	依然として厳しい状況だが、 <u>緩やかな改善が続いている</u>	

## 1. 生産及び企業動向

### (1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。（関東全域）

一般機械は、9月に韓国、台湾向けのフラットパネル・ディスプレイ製造装置、デジタル民生機器用の半導体製造装置が増加したことにより、前期比で増加に転じた。化学は、内需ではIT関連、自動車関連の需要が引き続き堅調であり、外需ではアジア向け輸出も好調であるが、定期修理等の影響で引き続き減少した。輸送機械は、北米向け輸出が減少しているが、内需では乗用車が新型車投入効果により増加し、トラックが排ガス規制による買い替え需要で引き続き堅調であったため、増加に転じた。情報通信機械は、7月に携帯電話向けの部品が増加したこともあり、引き続き高水準で推移し、前期比ではやや増加した。電気機械は、9月に蓄電池などスポット的な受注生産があったが、前期に比べるとやや減少した。



（備考）平成 15 年 9 月の関東は速報値。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

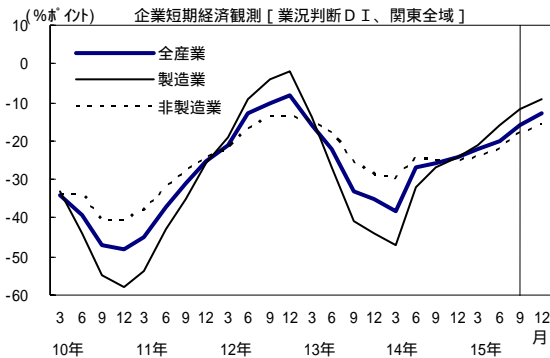
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
一般機械	13.8	3.2	6.6	3.8	0.1
化学	13.7	2.7	1.4	0.1	0.8
輸送機械	11.3	4.4	5.0	2.4	9.4
情報通信機械	8.6	1.8	1.0	5.0	14.4
電気機械	7.9	2.0	0.2	0.7	0.9
鉱工業	100.0	2.0	1.6	1.7	0.7

（備考）1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

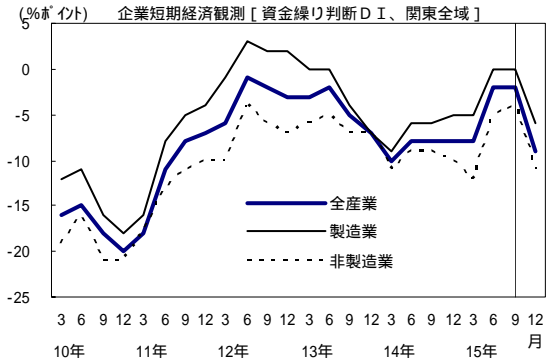
2. 7～9月期は速報値。

3. 7～9月期の化学の生産、出荷については、7月、8月  
確報値の平均より算出。在庫については、8月確報値。

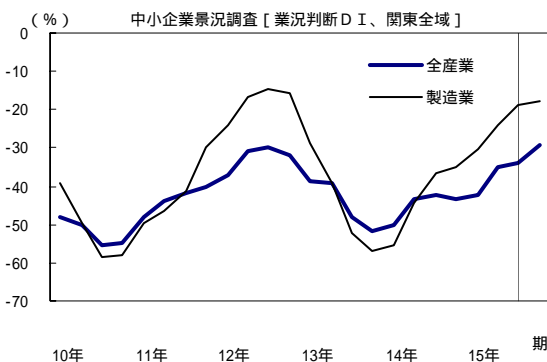
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。  
 企業短期経済観測調査 [ 業況判断D I、資金繰り判断D I ] 及び中小企業景況調査 [ 業況判断D I ]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年12月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査)[ 企業動向関連 (現状判断)]

「受注量が多く、残業をしないと納期に間に合わない状況が続いている (一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

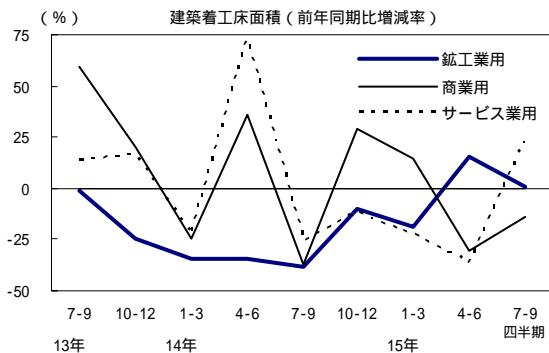
(3) 設備投資の15年度計画は前年度実績とほぼ同水準になっている。

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 (9月調査、関東全域)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	3.3	0.3( 2.1)
製造業	13.9	2.4( 1.5)
非製造業	2.1	0.1( 2.5)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。



(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

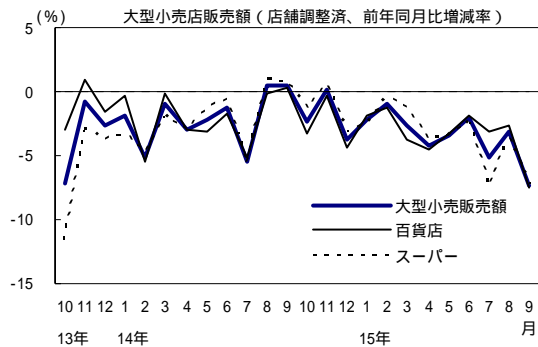
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、7月は、身の回り品では海外ブランドバッグなどが好調で、2か月連続で前年を上回ったが、冷夏の影響で衣料品を中心に夏物が不振であった。8月は、身の回り品が引き続き好調で前年を上回るなど、全体でも前月よりもやや持ち直した。9月は、残暑の影響による秋物衣料が不振であり、身の回り品も前年割れに転じるなど、全体としても低調に推移した。

スーパーは、主力の飲食料品はやや前年を下回る程度であったが、7、9月の天候不順により季節衣料が不振となるなど、全体としては低調に推移した。なお、全店ベースでも前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「全国うまいもの大会、北海道物産展などの食品関連の催事は好調であるが、衣料品は依然苦戦が続いている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



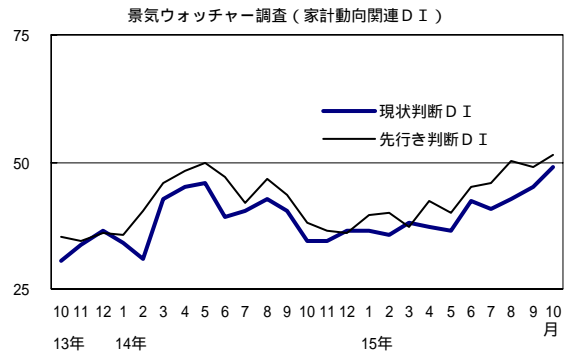
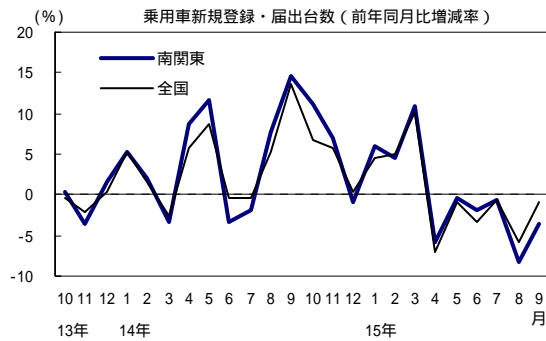
(前年同期比増減率、単位：%)

	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	2.2	2.0	3.2	
百貨店	2.8	2.4	3.2	
スーパー	1.5	1.5	3.2	
乗用車	5.5	7.8	2.5	3.7
景気ウォッチャー	35.2	36.6	38.6	42.9

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

15年7-9月期は未公表。

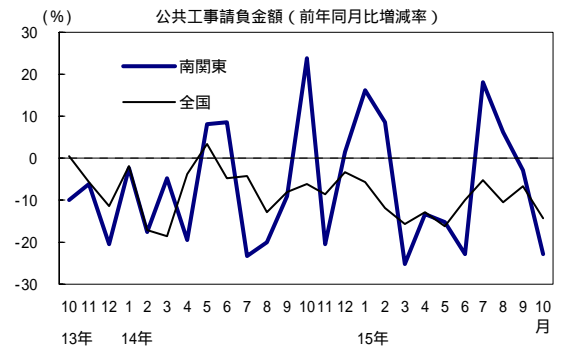
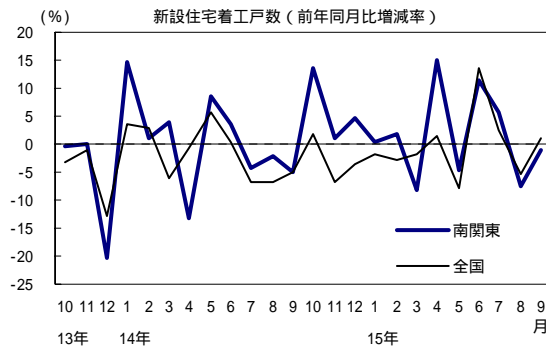
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

持家が前年を上回ったものの、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

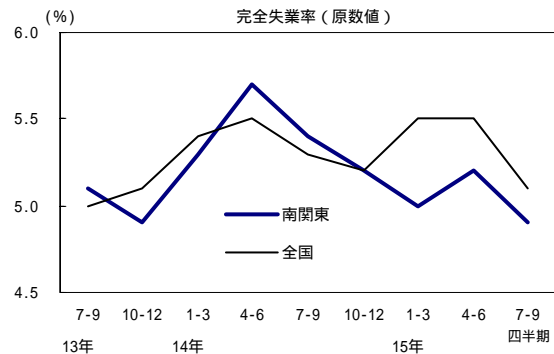
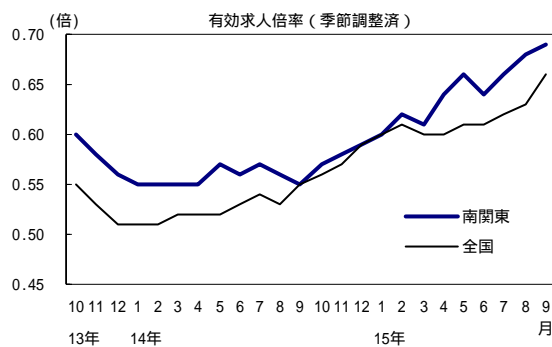


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

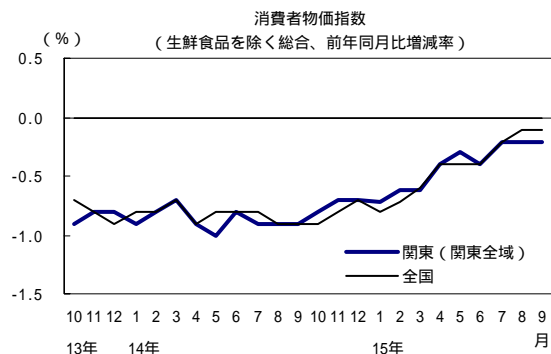
「IT系企業や証券、金融で中途採用の動きがある。新卒採用の分野でも建設、ソフト業界など、これまで控え目だった業界にも動きがみられる(求人情報誌製作会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月	15年10月
倒産件数 (前年比)	1,406 9.5	1,382 13.0	1,294 11.8	1,208 16.1	453 10.8
負債総額 (前年比)	16,126 36.8	19,914 15.2	8,523 40.0	13,483 1.6	2,369 79.6



景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・10月に入り気温が下がり、秋冬物が活発に動いている。特に、婦人物のトレンチコートが売れ筋となっており、徐々にヒット商品が出ている。消費者がファッションへ支出する余裕がうかがえる(百貨店)

<先行き>

・ブーツ、毛皮のストール、マフラー、カシミアなど、婦人衣料で単価の高い商品の動きが非常に良い。こういったトレンド商品の数量を確保できれば、売上は拡大する(百貨店)

